

column

『編集者が伝えたい、「社会保険おきなわ」の魅力』

『学べば学ぶほど、自分がどれだけ知らないかを思い知らされる』

かの有名なアルベルト・アインシュタイン氏の言葉です。

皆さん初めまして、私は広報誌「社会保険おきなわ」編集担当の川寄です。いつも当広報誌をご愛読いただきありがとうございます。

私は2019年1月号から主にコラムページを中心に関わらせていただき、丸7年となりました。コラムは主に保健、栄養、運動、メンタルケア、チームビルディングなどの専門家の皆さんに執筆いただいています。

これまで様々な分野の執筆者の皆さんとやり取りをしながら、添削のため誰よりも早くコラムを読んできました。その度にコラムページは特に「こんな見方があるのか」と刺激をもらっています。そしてそのどれもが働く人や企業を支える大切な世界だと感じています。

そこで今回は「社会保険おきなわの楽しみ

方」を皆さんにお伝えできればと思います。

○編集者の想い

本題に入る前に僭越ながら、編集者とは別の私の仕事についてお話をさせていただきます。

私は基本的にフリーランスとして、20代から様々な仕事をさせていただきました。始めはイベントのカメラマンから、冊子やチラシのデザイン、動画編集、WEBライター、地方新聞の通信員、個人や放課後等デイサービスでイラストや創作の先生、組合や行政関連の短時間事務仕事など。あとは仕事ではないですがフリーランスになってから地域の消防団にも入団しました。

振り返ると色んなことをやってきたあと我ながら感じております。実は記した仕事はどれも波はあるものの、同時並行で継続している仕事ばかりです。ただ全ての仕事において共通した考え方があります。それは「相手が何を考えているか」です。

写真は「納品先は何に使いたいか」、子どもたちに絵を教えるときは「この子は何が

好きなのか」、消防団活動では「団員として自分は何を求められているのか」と、最終的に受け取る側のことを考えて仕事をしています。そのため当広報誌に関しても、同じ思いで取り組んでいます。

○自分事として制度を知る

皆さんはこの頃学ぶ機会がありますか？私は仕事、家事、育児に追われ、時間が空いてもスマートフォンでSNSをつい見てしまいます。新しいことを学ぶのは必要が無い限りどうしても後回しにしてしまいがちです。また学ぶこと自体、興味が湧くまたは必要性に気づかないと自ら集めに行かないのが現実。ですがいつの間にか制度や働き方、企業を支える仕組みなど、今までの当たり前があったという間に変わっていくのが現代。それぞれの専門分野であれば、その制度変更を敏感に



キャッチできますが、同じ職場であっても役職が変わるだけ知らないことが多くなります。

だからこそ当広報誌では、企業で働く様々な立場の皆さんにとって自分事として制度を知るきっかけになればと考えております。年金や健康保険、社会保険に関する新しい制度はもちろん、「教えて城間先生!!」では社会保険労務士の城間先生が実際に相談業務の現場で「多くなった」「伝えておきたい」と感じたことを、分かりやすい事例と共に紹介しております。かく言う私もこの度妊娠し、今年9月号の出生後休業支援給付金の記事を目にして、このような制度があることを知ることが出来ました。お手元に届いている当広報誌には最新の情報が盛りだくさんです。ぜひ目を通して「こういうものがあるのか」とサラッとでも良いので知識を得てはいかがでしょうか。

○コラムは新しい知識の扉

コラムは、保健、栄養、運動、メンタルケア、チームビルディングといった自分自身、職場で共に働く仲間目看向く内容から、企業の皆さんに向けて「こんな視点もありますよ」というような、普段関わる機会が少ない

ジャンルの方にも執筆いただいています。

なぜこのような方々にも執筆していただいているか。私の考えに似た言葉をステイブ・ジヨブズ氏も言っていました。

「顧客が求めているものをただ与えても十分ではなく、先に示すことが大事」

先にお伝えしたように、現代社会なかなか時間を取って自分の知らない新しいことを学ぶ機会は少ないです。そこで当広報誌から新たな視点として、多様な専門分野の方もいることをお伝えしています。

読んでくださる皆さんの中に、

「知らなかったけど、気になるからもっと知りたい」

「今までにない見方だけど、自分の会社にも取り入れられるかもしれない」

そんな小さな芽が生まれることを、私はいつも願っています。

○2カ月に1回、知ることを楽しみに

知ることは、誰にとっても自由で、楽しいものです。そしてその楽しさは、働く人を支え、企業を支え、地域を支える力になります。これからも沖縄県の企業の皆さんが求める情報と新たな知識を得られるような、そんな広報誌を目指して関わらせていただきたいと思います。

います。今後ぜひ2カ月に1回の楽しみとして、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、いつもご拝読いただいている読者の皆さまはもちろん、コラム執筆者、沖縄県社会保険協会、年金事務所、協会けんぽ沖縄支部のご担当者、印刷会社、発送業者など多くの皆さまに改めて感謝申し上げます。

プロフィール

「社会保険おきなわ」広報誌編集担当 川 寄 紋氏

「社会保険おきなわ」が8頁から12頁に増ページした2019年1月号からの編集を担当。

その他フリーランスとしてデザインやライティング、子ども向けのイラスト講師など、多様な仕事を行っている。

